

原 強 プ 第 8 号  
平成25年10月30日

島根県知事 溝口善兵衛様

中国電力株式会社  
取締役副社長  
原子力強化プロジェクト長  
小野雅樹

島根原子力発電所における保守管理の不備等に関する  
再発防止対策の進捗状況について（報告）

平成25年10月7日に開催された、第9回原子力安全文化有識者会議の議事概要について、平成22年3月30日付け消防第2738号および平成22年10月19日付け消防第1054号の申し入れに基づき、添付資料のとおりご報告いたします。

添付資料

第9回原子力安全文化有識者会議の議事概要について

以上

## 第9回原子力安全文化有識者会議の議事概要について

- 開催日時 平成25年10月7日(月) 14時00分～17時08分
- 開催場所 ホテル白鳥 3階鳳凰の間(島根県松江市千鳥町20)
- 出席者 [地元委員] 浅沼委員, 石原委員, 亀城委員, 曾我部委員, 前田委員, 三好委員  
[一般委員] 宇於崎委員, 樋口委員, 増田委員  
※首藤委員は欠席  
[社内委員] 小野原子力強化プロジェクト長, 清水副社長, 古林常務

### ○ 議事内容

#### 1. 出席委員の確認

事務局より参加委員を確認。

#### 2. 開会あいさつ(小野幹事)

- ・ 点検不備問題からちょうど3年半が経過し, 原子力安全文化有識者会議も9回目の審議をいただくことになる。
- ・ 原子力安全文化有識者会議などで委員の皆さまからいただいたご意見も踏まえながら, 再発防止対策と信頼回復に取り組んできた。
- ・ 点検不備問題を踏まえ, 発電所の運営全般にわたって国の特別な保安検査が実施されてきたが, 先般7月31日に開催された原子力規制委員会において, 次回以降, 通常の保安検査体制に移行することが決定された。
- ・ 私どもとしては, これまで取り組んできた再発防止対策や安全文化の醸成に対して国から一定の評価をいただいたものと受け止めているが, 今後も点検不備問題を風化させることなく, 安全を最優先とする文化の一層の浸透・定着を図り, 皆さまに安心していただける発電所としてまいる所存。外部有識者委員の皆さまには, これまでのご支援に心から感謝申し上げます。
- ・ 今年度上半期も, 安全文化醸成活動施策を確実に実施するとともに, 点検不備問題の風化防止等に取り組んで参ったので, 本日はその実施状況, 評価等についてご説明させていただく。また, 現在, 福島第一原子力発電所の事故を踏まえたさまざまな安全対策に取り組んでいるので, その取り組み状況等についても, 後ほどご説明させていただく。
- ・ 本日も忌憚のないご意見やご提言をいただくようよろしくお願い申しあげる。

### 3. 議事

資料に基づき、電源事業本部部長 本田および原子力強化プロジェクト部長 千葉から「点検不備問題の根本原因に対する再発防止対策の取り組み状況について」および「H25年度再発防止策および原子力安全文化醸成活動の実施状況について」を説明し、電源事業本部専任部長 北野から「島根原子力発電所の安全対策実施状況について」を情報提供した。

主な意見は、以下のとおり。

- (1) 点検不備問題の根本原因に対する再発防止対策の取り組み状況について
- (2) H25年度再発防止策および原子力安全文化醸成活動の実施状況について

- ・ 協力会社からの不具合情報の提供が多いのはすばらしいこと。この方向でがんばって欲しい。
- ・ 職場話し合い研修のマンネリ化防止の施策に取り組んでいるが、取えて違ったグループの人を即席でグループを組ませて、そこで議論するなど、研修内容についてもっと工夫したほうが良い。
- ・ 職場話し合い研修の出席者へのアンケート結果にあった少数意見、否定的意見を取り上げているのはすばらしい。この否定的意見を大切に取り扱いいただきたい。
- ・ 事前に、話し合い研修に同席する管理職に対し、目的や役割などの意思統一を図り、研修後には反省会などを実施し、次回研修に反映させる仕組みとしたほうがよい。
- ・ 職場話し合い研修の出席者へのアンケート結果にあった少数意見、否定的意見をみると、点検不備から3年半で、こういう意見が出るのはいかかかと思う。これをどのように受け止めて目を向けていくかが大切。
- ・ 他社事例をテーマにすることは一定の効果があるのではないか。
- ・ 話し合い研修の後、参加した人の考えをきちんと把握し、次の話し合い研修計画に反映していただきたい。
- ・ 話し合い研修の発想を変えて、社員の人たちが、もっと素直に意見を言ってくれるにはどうしたらよいかを考える努力をしたほうが良い。
- ・ 地元行事に参加した人たちが社内の安全教育に良い影響があったとの結果がでてくれば、それはすごくいいことだと思う。
- ・ 地元行事へ参加することは、参加すること自体が目的ではなくて、地域の方々との意思疎通、お互いのコミュニケーション、お互いの信頼関係を築くための手段であると思っている。
- ・ 原子力安全文化行事に初めて参加したが、鐘の鐘鳴からはじまって、ずいぶん本気でやっているなど感じた。
- ・ 6月3日の安全文化の日に役員と社員の意見交換会に出席したが、社員から積極的な意見が出され、仕事に責任や誇りを持っていることがわかってよかった。しかし、会場のレイアウトや時間配分などをもっと考えれば更によいものとなると感じた。
- ・ 安全についてどう議論しているか、社員がどんな意識であるか、不適合に対してどんな取り組み

をしているということをきちっと市民に報告することが大事。HP を通じてとか、あるいは新聞を通じて公開することで、30 km圏内の人たちも安心すると思う。

- ・ 広報誌「あなたとともに」は年4回新聞に折り込まれてくる。より多くの方の目に触れるよう週末に配付されていると思うが、週末は他の広告に埋もれる可能性もある。
- ・ 発電所構内見学の機会に大変満足して帰った。そのとき説明された方に丁寧に対応をもらった。そういうわかりやすく説明できるスキルを持った人を数多く育成していくことが必要。
- ・ 発電所構内見学はバスで案内されるが、車中前方のメインの説明者に加え、後ろと中央に説明をきめ細やかにフォローする人を置くなどすると、より理解度が深まるのではないか。
- ・ 発電所の玄関ホールモニターに社員が地元行事に参加した模様などを放映しているが、地域の方々が多く来る原子力館でも放映すれば、効果的な情報発信の場所になるのではないか。
- ・ 中国電力、そして発電所のみなさんはやるべきことをかなりやっていると考えている。次の段階としてそれを世間に問うということが大事。本当に知りたいことがわからないから不安を抱いている世間の人たちの反応を引き出すために、もっと外に向けて広報をすべき。
- ・ タブロイド紙を電気新聞に折り込んでいるが、読む人は限定されるので、これを地元紙にも折り込むなど、より多くの人に読んでいただくようにしたらどうか。
- ・ 女川発電所では福島第一との違いを前面にだされた説明が行われていた。比較対象として、もし福島と同じような事故が起こったら島根ではどうなるかなどを比較しながら説明されたら、もっとわかりやすい。
- ・ 不適合管理の改善について、EAMは余程見る機会がなければ自分から見に行くことはないと思うので、必ず見るようにする手立てを考えられたほうがよい。
- ・ コミュニケーションを図る上で、これまでのように地元のイベントに参加して対話を深めることも大事だとは思うが、新しいイベントを自ら行うこと、例えば原子力発電所の周りで駅伝大会などを行うことも効果的ではないか。
- ・ 資料を作成される際には、この図はいったい何を意味するのか、このデータはなにを意味するのか。簡単な言葉で、一言メッセージをつけて説明されればよいと思う。

### (3) 島根原子力発電所の安全対策実施状況について

福島第一原子力発電所の事故を踏まえ、現在、当社が取り組んでいるさまざまな安全対策について情報提供し、質疑を行った。

### 4. 閉会あいさつ (小野幹事)

活発な議論に対して謝辞を述べた。

以上